

新教頭赴任

新任のご挨拶



教頭 大崎 博章

た、放課後になりますと、部活動がものすごく、体育館・校庭、また碓氷川の河川敷・浜川体育館等まで出かけての活発な活動を毎日目にし、ものすごい「勢い」を感じております。私が在学していたころはこんな感じはなかったように思います。

また、最近の進路状況も文武両道の精神が浸透し、立派な成績が残されている状況です。

今年度の高校総体もすべて終了し、総合成績も発表されました。なんと「総合準優勝」でした。最近では、四位、三位、そして二位と着実に成果を上げて参りました。しかも、優勝校とは0.5点差と肉薄してきています。高体連の過去の記録を調べたところ総合二位は過去に三回ありました。今回は十九年ぶりの快挙にありまます。OBの方々も後輩たちの活躍に讃美を送っていただけることと思います。中身を見てみますと、バスケット部が優勝、三位には、バレー部、ソフトテニス部、ラグビー部、柔道部が入り、四位に硬式テニス部、駅伝、また五位にサッカー部、剣道部、軟式野球部、山岳部、水泳部、さらに陸上部が六位、弓道部が七位に入賞しました。その他の部でも頑張りを見せて

今年度から教頭としてお世話になっております。翠巒体育会には運動部活動の後援をはじめ、常日ごろから「指導ご協力」いただき大変感謝いたしております。

本校に赴任して感じたことは、前任校が安中高校で五百名足らずの男女共学校でありましたので、約千名の男子ばかりで少々圧倒された、というのが四月当初の本音でした。校舎内外で授業に張り切って取り組んでいる教職員。真剣そのもので授業に集中している生徒諸君。ま

くれました。以上のように全ての活躍が総合されての結果であります。ぜひこの結果に満足することなくさらに上位を目指して頑張つて欲しいと思っております。これまでも増してOBの方々の声援もよろしくお願いいたします。私もスポーツを愛しています。自分では競技はできませんが、生徒の応援だけは時間の許す限りやりたいと考えています。今年度も硬式野球部の春の大会では保護者会の方たちと声を張り上げてスタンドで声援しました。総体では校長、事務部長、通信の教頭、教務主任、進路部長たちと分担してできるだけ応援しました。高校時代に部活動、特に運動部で信頼できる仲間や指導される先生方と汗を流すことは本当にすばらしいことと思います。ほとんどの生徒が高校時代でしか経験できないことですので、一人でも多くの生徒が経験してほしいと思っております。幸いのこと本校では部活動の加入率は文芸部28%、運動部64%その他実行委員等を含めますと全体の加入率は98%(四月末現在)とほとんどの生徒が参加して活動しています。

ここで本校の「三F精神」について触れてみたいと思えます。高百年史によりますと十七代田中悦平校長が生徒訓示の中でしばしば口にされた、と記録されています。十年十一月もの永きにわたって校長を勤められた田中校長とは、私たちの卒業と一緒に退職された、と記憶しております。田中校長は「翠巒」(創立七十周年記念誌)の回想記の中で「三F精神」にかかわって、次のように記されています。

ます。『よき施設よき環境が学校教育にとつて必要なことはいうまでもないが、それにも増してたいせつなことは、その学校のもつトーンであり、精神であると思えます。私は、外なるものよりも内なるもの、形よりも精神を重んじたいと考えていました。旧制高校は、自由と自治の精神の揺らん(藍)であり、友情の花園であったといわれませんが、私は、わが高高に、真の意味のリベラリズムとヒューマニズムの精神を育てたい、高きもの永遠なるものをつちかつてゆきたい、と念願しました。・・・

教育の基本は師弟の人間的な交わりであり、生涯の心の友も学生時代に得られるもので、私は、何よりもまず、よき師、よき友にみちた学校をつくりたい、真実と友情にあふれた学園をつつてゆきたいと願いました。

こうした私の願いは、それが形にあらわれないものだけにどれだけ育てられたかは、はかられもしません。しかし、折りにふれて生徒たちに語った三F精神(ファイト、フェアプレー、フレンドシップ)などは、若いかれらの共感を得て、生徒間の合い言葉になったかのようでした。』

この精神が現在も本校の教育目標として脈々と受け継がれております。全員が大学受験を目指し、毎日の運動部の活動は厳しいものがありますが、多くの先輩方が築きあげてきた文武両道は立派に後輩達にも引き継がれております。今後とも翠巒体育会には運動部活動に對しまして絶大なるご協力・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

特別寄稿

「指月庭」バラ園の復活

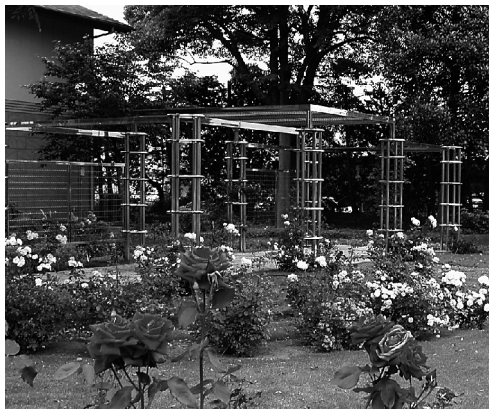


濱名 光彦
サッカー部 (55期)

平成 14 年 2 月 4 日、新「指月庭」の完成引渡しを行った。同窓会副会長 長田中氏をはじめ、國峯、田畑、山口の各氏、学校側は校長、教頭、事務長、定時制教頭の各先生立合の下、無事終了し、軽快で明るくすっきりしたバラ園となったとの感想をいただき、ほっと胸をなでおろした。

整理をして、芝生の庭とし、また何とか使える 20 株ほどのバラを選んで移植し、少しは、バラ園の面目も保たせたのである。当時は事業委員等何回も図面を出し、同窓会館の前庭として考えていたが、予算の都合で芝生主体となった。私は必ず後に復活することを予想し、誰がやってもしやすいうように、それでいてある程度は庭園の姿を持たせる事に重点をおき、次のような考えで臨んだ。

1. ヤブや老朽化したバラ、柵等の整理と既存木の整理(ケヤキ 4 本、タラヨウ 1 本を残す基本景観とする。)
2. 全体に明るい感じと広さ、周囲への見透しを考慮。
3. 芝生や舗装面を設け、人の集散、流れを考慮。
4. 既存のバラは選別して移植し使用する。



5. 次回計画時にやりやすいプランの設定。そして、平成 9 年 5 月 20 日、同窓会館と共に完成したのであった。それから数年がたち、やはりバラ園をもっと充実させたいという声が同窓の多くの人達からあがったようである。校歌の一節にあるからとの理由もあったが、当時のバラ園への想いも強かったのではないかと思われる。これは私だけでなく井上先輩を通して、バラに関わる単なるノスタルジーではなく、ある種の誇りとして、別の同窓生の絆として続いていたのである。

今後も続くであろうその絆の基本となる「指月庭」の計画を再度私にやらせていただくことになった。前回の考え方を元に、今度はかなり長期に残っていくものであるから、懸念されるべきものも含めての考え方を設定し 3 案ずつ 3 回図面を提出し、その一つを修正して案がまとまった。

1. 現代風の斬新なデザインであること。
2. 校門を入つての第一印象強調を重視。
3. するとい眼をもつた人達の来訪も考慮、全体の格調も意識する。
4. バラのパーゴラを中心とする。
5. パーゴラは耐久性を考え、ステンレスパイプを採用した。これは他所にはあまり見られないもので、一種の先鞭の意味も含まれている。
6. 既存大ケヤキの雲によるバラへの弊害を最小限にする為、原種に近いものや強韌な種類のものを多用する。
7. 管理のしやすいこと。

これらの根底には更にバラ園の情景が、卒業して何年たつても一つの記憶として、同窓の心の

絆としてタテヨコのつながりにも継続してゆけるようであればならないとの想いをこめたものである。そして、全体のデザインも当時の様な重厚なものにするか、さらりと軽快なものか、現代風のものにするかと悩んだが、とにかく、私の今までの知識からこれと思うものを出しすしかなないと考えた。

今回の工事には校舎の南側に沿つてある既存のバラ園の約 200m の縁石工事と土床の耕耘清掃も加えられた。双方のバラが同時に見られる事は壮観であろう。かくて平成 13 年 11 月 30 日着工し、前述の如く本年 2 月 4 日無事完成した。しかし、知つての通りバラは美食家でもあり、病弱でもあり、手間のかかる代表で、完成してからがまた一つの始まりでもある。管理体制をしっかりとついで、毎年話題になるような「指月庭」でありたいと思ひます。

最後に同窓会や学校の皆様に対して大変感謝申し上げますと共に、井上先輩の願ひである芸術性に富んだ人間を育てる意味から始めたと聞いておりますが、多少それらしい知識をもつた私が「指月庭」としてのバラ園を引き継ぐ形となり、本当にその責任を痛感しております。井上先輩の意志に少しでも近づけるよう、校歌に恥じないよう、又卒業生の心に残るようなバラ園となるよう微力ながら見守つて行きたいと思ひます。同窓の皆様も「指月庭」に来るような事がありましたら御助言やなつかしいバラ園の手伝いなどもしていただければ有難いと思ひます。

尚、この「指月庭」の最も良いバラの時期に「高丸バラ園まつり」や音楽会などが開催できるようになればもつと良いのではないのでしょうか。

思えば、私がまだ在学中の頃はバラ園はまだ美しく、故井上房一郎先輩が手入れに時々来ているのを練習中のグラウンドから見る事が出来た。時々呼び付けられてゴミの運びだしなどをさせられた。我々サッカー部だけでなく、ラグビー部や剣道部、野球部の人達もバラ園に近い所で練習していた部はそんな経験をしていであろう。自宅にも一度おじゃましたことがあつたりして、勉強部？の人達より運動部の人達の方が井上先輩と美しく咲いたバラの赤や白のイメージは心に残っているのではないだろうかと思う。卒業して何年も過ぎて、同窓会や所用で上高した折など、気が付いたらバラ園はいつのまにか「ヤブ」と化していた。大変な荒れようで中にも入れないような状態であった。

今回の工事の前に一度その「ヤブ」をとりはらつて整備したことがある。それは、同窓会館の建替え落成と同時に完成したが、この時はとにかく「ヤブ」を何とかしようという事で



「休み休みの柔道」
 松本駿太郎(61期)

「継続は力なり」というけれど、私の柔道のように休み休みの「断続」は何といえはいいのだろう。柔道を始めてから46年になるが、途中で何回も柔道から遠ざかっている。中断の期間は数年間に亘ることが何度もあり、数ヶ月の中断はしばしばである。真剣に稽古をしたのは高々の3年間くらいのものである。

高々柔道部OB会は毎年正月の3日に開催され、昼間はOBと現役の合同稽古や対抗試合を行なっている。数年前は対抗試合に参加したこともあるが、昨今は数人の生徒との乱取稽古だけにさせていた。それでも58歳の今まで稽古ができるのは、休み休みの「断続」といっても長期レンジで見れば「継続」に近くなるのかもしれない。私なりに「断続は継続の素」と考えている。継続は本当

に大変であるが、中断することは実に簡単である。中断が長くなればなるほど再開は大変である。サラリーマンの社会人スポーツは力まず自然体で取組み、中断した場合の再開のチャンスをとるようにつかむかである。この再開のトリガを与えてくれるのが柔道部の仲間と組織であると思っている。

柔道を始めた片岡中学は憧れの高々まで約500mの至近距離にあるが、柔道場がなく階段下の畳置き場から毎回畳を背負って教室に運んでいた。一緒に畳を運んだ仲間三井田君、加藤君、林君がおり、高々の柔道部でも一緒に稽古することになった。嬉しかったのは、高々には柔道場があるため畳運びをしなくてよいのとスプリングが入っているため投げられても痛くなかったことである。そのせいか投げられることに抵抗を感じなくなりました。いまだに「投げられ役」を演じている。

高々柔道部に一緒に入った新入部員は30人くらいいたと思う。ご多聞に漏れず夏の合宿を過ぎるころには半分くらいになった。高校時代を振り返って印象深いのはやはり合宿の思い出である。既に卒業されている多くの先輩が指導に来てくれた。毎日の稽古のメニューは決まっていたが、先輩によってメニューが変わったり、量が増えてしまうのである。しかし、そのような先輩は自分でも全てのメニューを率先してこなすので、菌を食いついて行くしかなかった。一番苦しかったのは、腕立伏や腹筋などのトレーニングにおいて終わりの回数や腹筋などを続けさせられたことである。目標に向かって頑張ること、いつ終わるか分からない状況としては苦しさは雲泥の差がある。一番ほっとする時間は、稽古が終わりトイレで小便をしている時である。体の中の疲れが

小便と共にスーと外に出て行くような気がした。しかし、大きい場合は大変である。筋肉が痛くて座り込むのにひと苦勞し、立つのは更に大変であった。夜は煎餅布団の中で先輩の世間話を聞きながらいつのまにか眠り込んでいたものである。

試合の戦果としては、残念ながら我期は特筆すべき結果を残せなかった。たった一つの成果は、卒業までに残った柔道部員の数が12人と高々柔道部の歴史の中で最多であったことである。見方によっては厳しい稽古をしなかった結果ともいえるかもしれない。

新入生を迎えた稽古で主将でありながら新入生の関口(現在鬼石町長)に投げられたのにはまいった。今井先生(クマさん)には「松本は柔道じゃあない、ダンスだ」と叱られたことを時々思い出している。

大学でも少しだけ柔道をやったが、毎日絞め落とされたのと遊びたさに本当にダンスに移ってしまった。大学の道場では私より遥かに背の高い竹内善徳先生に背負で投げられたのもシヨクだった。先生は翌年の全日本選手権で優勝してしまわれたのだから背負で投げられても当たり前だったのかもしれない。

国鉄に就職してからも柔道部に籍を置いたが、仕事を言い訳にして稽古を長期間休んだり再開したりの繰り返しであった。国鉄時代に鉄道電化の技術指導でアルゼンチンに3年間ほど滞在していた。この時にスポーツクラブの柔道場で何度が指導したことがある。小学生の女の子と稽古し、終わりの礼をした途端その子が駆けつけてきて私の頬にキスをしてくれた。それを見た道場の責任者が、日本の先生にはそのような習慣がないからキスをしてはいけないと女の子に注意した。習慣が

なくたつて一向にかまわないのに、余分なことをいわないでくれと思つたものである。

国鉄は各地域に柔道場を持っていたが、民営化時に柔道部員の大部分を占めていた鉄道公安官が警察へ移行したため、柔道部崩壊の危機が訪れた。東京駅丸の内北口改札の天井の上にある道場に対してもJR柔道部の使用権を確保するため、昼休みなど一人で柔道衣に着替えて使用実績を作ったこともあった。土地代を考慮したら一畳あたりの単価は世界中で一番高価な柔道場かもしれない。へ々でも時々この東京駅の道場で稽古をしている。昔は64期の柔道部の山田守君も時々稽古に来ていた。東京近辺に在任したり勤務している高々柔道部OBの方には柔道再開(再会)の場所として稽古に来ていただきたいと思つている。

JR東日本を55歳で定年退職する数ヶ月前頃に、高々柔道部の同期で日本電設工業(株)に勤務する池島君が、松本はうちの会社に来るといふ話があると教えてくれた。結果はそのとおりとなった。会社へは高崎から新幹線通勤をしているため、柔道部同期の村尾君とも時々一緒に列車になり、情報交換をしながら通勤している。

現在、池島君と私は建設業の厳しい状況の

高崎高校

柔道部OB会

会長 関口 茂樹(63期)



後方 池島、伊東、林、竹内、小野里、村尾、木村、三井田
手前 加藤、松本、今井先生、塚越、奥田

中で会社を盛り上げるため、2人とも新米執行役員として奮闘している。高々柔道部の同級生と一緒に会社の浮沈を賭けた仕事をしようになるとは夢にも思わなかった。高々柔道部の底力を充分に出し尽くしたいと思っている。

当社の柔道部には15名の部員がおり、松本・池島の指導体制で柔道部の拡大と強化に向けて、東京駅や上野駅構内の柔道場で稽古をしている。昨年からはJR東日本の柔道大会にグループ会社として当社の選手を参加させており、この原稿の締め切り日である明日もJR東日本東京地区大会に2名の選手を連れて参加する。

高々柔道部の絆が、我人生を充実したものにしてくれている。休み休みの柔道ではあるが、70歳までは柔道衣を着て、社会人スポーツとしての柔道の振興に少しでも役に立てればと思っている。

「柔道部の思い出」

KIZUNA

小見章雄(66期)

中学1年の11月、同級生の瀬川(後の高商の副部長)に誘われ、初めて柔道というものに出会った私は、高校に入って迷わず柔道部の門をたたきました。

中学時代は、二応レギュラーとして、県大会に出場し、団体戦で県2位になったものの、なんとなく物足りなさを感じていたからです。

入ってみると、当時の中学の柔道界では名前の知られた、塚中のキャプテンの「田口」、一前の「関」、四中の「須藤」を始めとするそれぞれの中学を代表する実力者が多数入部しておりました。(後の新人戦では、1年生ながら、田口と須藤がポイントゲッターとなつて、3位となりました。)

ほとんど無名の私もその中に混じつて、稽古に励んだのですが、中学時代のそれとは比較にならないきつい練習についていけず、度々エスケープを繰り返して、一目散に自転車漕いで、そんな時ほど、当時の3年生キャプテンの「富沢さん」にすれ違い、「小見、また、サボか」と怒鳴られた事を、なつかしく思い出します。

夏休みに入つて、はじめての「合宿」。23人の新入部員は半数になっていましたが、キャンプ気分に参加した私にとってまさに「地獄」のような1週間でした。

合宿所はラグビー部が使用して、まして、我々は当時の3年1組の教室を使ったのですが、教室までの階段の上り下りが、また「おつりのくる」トイレで中々立ち上がれなかったこと、朝の6時からの観音山マラソンと洞窟観音で

の階段の上り下り、腕立て伏せ、腹筋、うさぎ跳び。朝食後10時からの練習、また腕立て伏せ、腹筋・etc。昼食後3時からの練習・etc。やたらと沢山の、部員の数より多いOB。疲れのあまりほとんど食べる事のできなかった食事。あまりの辛さに1年生同士が練習中に涙ぐんだ目を交わした程でした。ただし、夕食後何処かへ飲みに行つてしまふ「鬼」のいぬ間のつかの間のひと時。

そんな中、2年生キャプテンの「内野さん」の真摯な姿に、裏切ることができず、1年生の秋からは真面目に稽古にできるようにになりましたが、ある時、5年生先輩の鬼の「須藤さん」がこらえられて稽古をつけて戴いたのですが、左組みの「跳ね腰」で手ひどく投げられました。立てていることが出来ないほどでした。他の者との「乱取り」を見ている見極めがつかないほどの速さで、当時特に得意技のなかった自分にとっては大変影響されました。

その後、その技を自分なりにものにして、2年生の時には「重量級」(当時は72kg以上)で、上級生に伍して我ながら活躍することができたつもりです。

そのうちに「内野さん」の後を受けて、キャプテンを引き継ぐ事になってしまいました。が、いまからみると子供で、甚だ「恥ずかしき事のみ多かりき」といったことの積み重ねで、後の大学時代の「間違い」を含めて3つの大きな失敗の一つを犯してしまいました。3年間の柔道部での経験は今の私にとっては、よきにつけ、悪しきにつけ貴重な体験と考えています。

なぜなら、現在、市内にて、親より受け継いだ「菓子屋」を営んでおりますが、当時、丸ぼちの中学生がきつい練習に耐えたおかげで得た「体力」は多いに役立っております。ま

株式会社大陸不動産

代表取締役 山口 正敏

(卓球部:58期)

高崎市宮元町一〇八番地
TEL〇二七三三二一四〇三一

た、犯した「間違い」も現在の自身の糧となつていきます。

OB会には、できるだけ参加させていただいてはおりますが、1年上級のキャプテンで、敬愛する先輩の「内野さん」、若くして物故されてしまった。にお会いできない事が、大変寂しいと思つています。

あるとき、同級の「田口」と「戸塚」と誘い合わせて、先輩の「桜井先生」のお宅に遊びにお邪魔した時に、「なんだ、お前ら、内野が死んだので、来たのか」と、先生に言われた時に初めて知つたのですが、今でも時々「合宿」の時の「内野さん」の姿、食事の後、疲れきった体が受け付けないのか、うらの用水路で吐いていた、そのくせ「なんでもないと微笑んでいた姿を思い出します。

数年前、恒例の1月3日の現役との「対抗戦」に稽古だけ参加させて戴きまして、自身では「まだまだ」、「むかし取った杵ずか」とばかり、現役の諸君を「手玉にとつて」とのつもりで、3人程と稽古させてもらつたのですが、夕方の「OB会」から帰つてから寝込みまして、6日の弊社の「仕事始め」はなんとこもったのですが、7日の朝に「ギックリ腰」を起こしまして、2、3日仕事が出来ない事がありました。ときどき同級の須藤のところで稽古した

こともあったのですが、(中学時代の琴錦とも)それ以来、稽古着に手を通したことはありません。なにとはともあれ、現役の諸君のますますの御活躍を祈ります。

「青春の絆」

城田雅之(84期)

私は84期生の柔道部員、昭和57年に入学し59年に卒業した。丁度、中曾根さんが総理となり、本県で「あかぎ国体」が開催され、ロス五輪で柔道の山下選手が金メダルをとった。そんな時代であった。

柔道部についていえば、現在の柔道場が新築されたこと。それから、部員からも他の生徒からも、「エバちゃん」と呼ばれ人気の高かった江原隆起先生が他校へ転任されたことが大きな出来事だろうか。

私と同期の柔道部員は最終的に6名、私はその6人を代表する気分での原稿を描いているので、以下「僕等」と書くけれど、僕等が入部した時の先輩達は団体戦で県の総体三位、関東大会にも出場していたからなかなか強かったと思う。その先輩達が最後の大会で藤岡高校に惜しくも敗れ、僕等は皆無念の涙をのんだ。だから、後を継いだ僕等の高校生活は、復活を賭けて血へドを吐くまで練習して、先輩の仇を討つという壮烈な青春時代となる。・はずであった。

ところが僕等は試合に勝ちたい、強くなりたいたのだが、厳しい練習は大の苦手で、最終的には「強い柔道部」から「楽しい柔道部」へと路線を変更してしまったのだ。

先生が出張などで留守だとプロレスをした

り、丸めた柔道衣でラグビーをしたり。翠巒祭の時期には、稽古の後にする紅白歌合戦の振りつけ練習の方が逆に厳しかったりもした。だから、格下の相手には圧勝するが上位陣にはまるで函が立たなかった。負けると悔しくてその時は心を入れ替えるのだが、練習になると、また「明日から本格的に、来週から死ぬ程猛特訓しよう」と先延ばししてしまうのだ。それでも、江原先生は無理矢理厳しい練習を押しついたりせず、できるだけ僕等の自主性に任せて指導して下さった。不出来な僕等を長い目で根気よく見守っていてくれたのである。

勿論場面は数少ないながら僕等だつてやる時はやった。初めての夏合宿なんか、農二や高商に加えて警察学校や柔道現役のOB先輩が多数参加されて、あれが高校三年間で一番厳しく充実した忘れたい数日間だった。練習が終わると、翠巒会館の二段ベツトで僕等皆ボロボロ雑巾の様に転がっていた。

思えば、あれが旧道場で最後の合宿であつて、僕等はその後をしめくくり、新しい道場に最初の第一歩踏み出すという貴重な歴史の証人だつた。その栄誉にふさわしかったかどうかを別として、新しい道場と云えば、柔道部は道場開きの儀式(セレモニー)として最強OB選手VS現役部員10名、一対十の真剣勝負を行った。そのOB選手というのが、現在顧問で当時バリバリの国体選手だつた鳥居先生。僕等はポイントどころか技一つ掛けられず10名全員ききれいに宙を舞った。観客に来ていたクラスメイトは鳥居先生が皆を投げて技を披露する、そういうセレモニーだと思つていたそつだ。

江原先生の話に戻るが、先生は僕等が二年

生になる時、前工に転任された。転任を控えた最後の春合宿、最終日のミーティングで皆がそれまでの感謝の気持ちを伝えると先生は、ちよつと俯いて涙ぐまれた。先生は本当に高々を愛してくれていて、そんな先生の気持ちをよそに僕等はその大事な合宿でも初日の晩にボウリングに出掛け、夜中に帰つて来て先生にぶん殴られる位の大馬鹿者だつた。僕等は最後まで不肖の教え子のままで終わった。

描きたいことは山ほどあるが、僕等の青春時代はまあざつとこんな調子で、血の汗を流す様な激しさも、その結果獲つた勝利の栄冠も感動のドラマも一切ない。ただ、悔いも不足も一切ない。高々の柔道部で大好きな仲間達とああいう青春時代を過ごせたことを幸せと心の底から思っている。僕等は、先生も高々も柔道部もみんな大好きだつた。その気持ち

平成13年度 翠巒体育会収支計算書 自平成13年4月1日 至平成14年3月31日

Table with 3 columns: 科目 (Category), 金額 (Amount), 摘要 (Remarks). It details income and expenses for the Judo Club, including items like membership fees, equipment, and travel costs.

Table titled '財産目録' (Asset Inventory) as of March 31, 2014. It lists assets such as cash, bank deposits, and property.

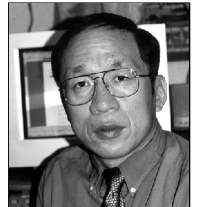
会計監査 丸山 功一 廣田 誠四郎
口座振込ご利用の場合は、下記口座までお願い致します。
群馬銀行 高崎西支店 普通預金 0593363
スイランタイムカイ カイケイ タカハシ七オ 翠巒体育会 会計 高橋浩生



は今も変わらない。
頑張らなかつた僕等が頑張っている後輩の皆さんに望むことはただ一つ、やがて迎える卒業の時、「高崎高校でよかったな、こいつと一緒に過ごせて本当によかつたな。」と心底思える様な青春時代をどうか送って下さい。
僕等は...15年以上の時を経つて今尚、はつきりと云える。
いい青春だつた。

スポーツと医療
[VOL.3]

中高年者のスポーツ参加のための
メディカルチェック



眞木病院
内科医師
永尾 俊弘
水泳部 (70期)

(1) GOT, GPT, YGTP

日本を含む先進国社会でも、どの臓器器官もすべて正常という中高年者、高齢者は稀で多くの人は何らかの生活習慣病に代表される内科的疾患を持ちながら日常生活を送っています。先進国社会では、中高年者でもスポーツを趣味とする人の割合が多く、そのためか、スポーツ実地中の突然死や事故も多く、マスコミ等でもよく取り上げられています。わが国のスポーツ施設での死亡事故及び重大事故は、男性では虚血性心疾患、女性ではくも膜下出血が多く、さらに60歳以上の高齢者では大動脈瘤破裂が多い事が知られています。このような状況から、医療現場からもスポーツ参加のためのメディカルチェックの基準制定が求められるようになり、現実にはあまり知られていませんが、1999年開催の日本臨床スポーツ医学会において内科部会勧告として

(1) 総蛋白質、総コレステロール、中性脂肪
栄養状態をみている。総コレステロール・中性脂肪については高脂血症の評価。

(3) 尿酸

(2) スポーツ参加禁止基準(肝臓、腎臓、循環器などが発表されました。

(4) BUN、クレアチニン

(5) 血糖値
糖尿病の有無をみている。糖尿病の人では早朝空腹時血糖値が200以上だとすべてのスポーツへの参加を禁止されます。

(1) メディカルチェックにおける基本検査項目
(2) スポーツ参加禁止基準(肝臓、腎臓、循環器などが発表されました。

1. 血液検査

赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット、白血球数

主に貧血の有無をみている。ヘモグロビン10.0以下だとスポーツへの参加は禁止となる。

2. 生化学検査

3. 尿検査

尿蛋白、尿潜血、尿酸

4. 胸部レントゲン写真

心臓の大きさを主に評価する。心胸郭比(CTR)50%以上だと心肥大つまり心臓がなんらかの理由で大きいという判定となります。

ります。ただし、たいへん誤解している人が多いのですが、中高年者にスポーツ心臓はありません。他の原因によるものです。また肺の変化も問題となります。

5. 安静時心電図(いわゆる普通の心電図)

心臓の状態の評価。虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞等)の否定。但し、安静時心電図だけでは不十分で、可能ならば運動負荷心電図を行うべきで、特に安静時心電図で異常の認められた人、40歳以上の男性、50歳以上の女性には必須の検査とされています。中高年の方で、過去にまったく病気を指摘されておらず、さらに現在まったく無症状であってもスポーツに参加する前に、少なくともチェックしておくべき検査項目についてお話ししました。次に、病気を所持の方がスポーツに参加する場合についてお話ししたいと思います。

先に述べたようにわが国のスポーツ施設での死亡及び重大事故は、ほとんどが循環器系の疾患で、男性では虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞等)・女性ではくも膜下出血・60歳以上の高齢者では大動脈瘤破裂が多いという事実を考えると、これらの疾患の基礎疾患としてあるいは危険因子として、生活習慣病(高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満)をお持ちの人がスポーツに参加する時は、より慎重なメディカルチェックが必要であるということになります。

高血圧を有する人がスポーツへの参加する時の可否の判定ですが、収縮期血圧(最高血圧)180mmHg以上あるいは拡張期血圧(最低血圧)110mmHg以上の時は、スポーツの強度

分類の静的強度が高度なスポーツは禁止となります。具体的には、陸上競技(投擲種目)、体操、空手、柔道、ダウンスキー、ボディビル、サイクリング等がこれに該当します。またこの

血圧レベルでさらに高血圧性の臓器障害(虚血性心疾患、脳血管障害、大動脈瘤、末梢血管の閉塞、腎機能障害、眼底出血など)を指摘されている人は、すべてのスポーツが禁止となります。次に、高血圧を有する人のメディカルチェックについてお話しします。中等症以上の高血圧患者(収縮期血圧160mmHg以上あるいは拡張期血圧100mmHg以上)では、脳血管障害及び虚血性心疾患による死亡の相対危険度が高いので、先にあげた検査項目に加え、可能なら頭蓋及び体幹のCT検査あるいはMRI検査を行うことが必要となります。

糖尿病治療中の人がスポーツ参加へするときの可否判定は、合併症がなく血糖コントロールが比較的良好な人(早朝空腹時血糖値200mg/dl以下、尿中ケトン陰性)ではスポーツ参加に特に制限はありませんが、できれば、ゴルフボールングなどの動的、静的に軽度に分

高崎高校

野球部OB会

会長 飯島 勇(57期)

類されるスポーツへの参加が望ましいとされています。血糖コントロールが不良な人(早朝空腹時血糖値200mg/dl以上、尿中ケトン陽性)眼底病変(増殖性網膜症)のある人、血中クレアチニン値20以上の糖尿病性腎障害をお持ちの人、CVIが15~2以下の自律神経障害をお持ちの人は、残念ながらすべてのスポーツへの参加が禁止となります。特に糖尿病の

高血圧を有する人がスポーツへの参加するときの可否判定は、合併症がなく血糖コントロールが比較的良好な人(早朝空腹時血糖値200mg/dl以下、尿中ケトン陰性)ではスポーツ参加に特に制限はありませんが、できれば、ゴルフボールングなどの動的、静的に軽度に分

人は、スポーツをしている最中に様々な弊害が生じやすい。血糖値のコントロール不良の場合は高血糖・ケトアシドーシスによる糖尿病性昏睡。血糖コントロール良好の場合でも血糖降下剤の服用あるいはインシュリン使用による低血糖発作。合併症をお持ちの場合は、増殖性網膜症では眼底出血、糖尿病性の自律神経障害では失神発作、糖尿病性腎障害では腎不全の悪化がそれぞれ起こる可能性があり、より注意が必要となります。

高脂血症の場合、スポーツへの参加は、特に合併症がない限りこれといった制限もありませんし、高脂血症自体がスポーツによって悪化するということはありません。ただし、スポーツの急激な中止は、血中遊離脂肪酸濃度が上昇し不整脈を誘発することが知られており、スポーツを終わる時には、突然終了するのではなく、やはりクーリングを行う必要があると思えます。高脂血症の評価は、血液中のコレステロール・中性脂肪・HDLコレステロールを測定しその結果による事になります。代表的な合併症として冠動脈疾患(狭心症・心筋梗塞等)がありますが、スポーツへの参加の可否の判定は、合併症の冠動脈疾患の有無及び重症度によりますので、別な稿でお話したいと思えます。

肥満については、高度肥満の人(BMI: Body Mass Index 体格指数35以上、あるいは肥満度50%以上)では、運動により膝・足などに整形外科的な合併症(関節炎・骨折など)をおこし易いので、スポーツへの参加は禁止となります。また、BMI 25以上の人で他の心血管病変の危険因子(45歳以上の男性・高血圧症・高脂血症・糖尿尿・喫煙・突然死の家族歴等)をお持ちの人は、潜在的に虚血性心疾患に罹患している可能性がありますので、スポ

ーツに参加する前に念のため運動負荷心電図を行うべきだと思います。

生活習慣病(高血圧・糖尿尿・高脂血症・肥満)をお持ちの人で、合併症として心血管病変が疑われた時は、念のため運動負荷心電図を行います。運動負荷心電図で陽性の人は、虚血性心疾患(狭心症)に潜在的に罹患している可能性が高いので、循環器の専門病院(例えば高崎地区では国立高崎病院、済生会前橋病院等)で冠動脈造影検査(心臓カテーテル検査)を行い、その結果に基づき参加できるスポーツの範囲を検討する事になります。ただし、幸いな事に、程度に応じて様々な制限はつきませんが、結果が低リスク群、高リスク群いずれであつてもゴルフは許可されております。ただし、いささか専門的となりますが、著しい左心室の機能低下(駆出分画50%未満)、運動耐応能低下、運動誘発性不整脈のある人は、突然死の可能性が予想されるためすべてのスポーツが禁止となります。

中高年の人がスポーツへ参加する時に事前に受けるべき(厳密に言うとう市民スポーツ愛好者レベルを対象にした)メディカルチェックについて生活習慣病(高血圧・糖尿尿・高脂血症・肥満)及び潜在的に心血管病変が予想される場合についてお話ししました。メディカルチェックの本来の目的は、検診時にすでに罹患している病気がありスポーツによりその病気の悪化、あるいはそのために予見されるスポーツ事故(突然死・整形外科的事故など)を予想し防止する事にあります。しかし、現実には生活習慣病をはじめ多くの病気が無症状ですので、自分がすでに生活習慣病などに罹患しているのに受診者本人が気づいておらず、検診時に始めて指摘されることも多く、スポ

ーツに参加するためのメディカルチェックというよりいわゆる健康診断、健康相談になってしまふことが多い事をいつも残念に思っています。スポーツに関連した突然死については、次のような傾向が知られております。男性に多く、中高年者に多く、更に中高年者の原因基礎疾患として圧倒的に冠動脈疾患、特に心筋梗塞が多い。また、その他の原因基礎疾患もほとんどすべてが循環器系疾患である。そのため中高年の市民スポーツ愛好家に対する内科的メディカルチェックは、循環器系を中心としたものとなります。今回は、1999年の第10回日本臨床スポーツ医学会で発表された内科部会勧告に基づいてお話ししました。しかし、実は国内外を問わずメディカルチェックについてまだ確立したものはなく、多くの研究者によって様々な提案がなされているのが現状です。

最近話題となっている事に、これは接触性スポーツ(ラグビー・レスリングなどを指しているのでしょうか)においてのみですが、試合中の接触により様々なウイルスが選手間で感染する可能性がありえるという事です。そのため本人の充分な同意がえられるならば、事前にB型肝炎ウイルス(HBs抗原・C型肝炎ウイルス(HCV抗体)・HIVウイルス(HIV抗体)の検査をし、注意をはらうべきだという事です。なかなか問題のある話だとは思いますが、この事はこれからはやむをない事だろうと思えます。最後にどんな理由があれ、スポーツへの参加を中止すべき状態についてお話しします。

1. あたりまえのことですが、急性疾患あるいは慢性疾患の急性増悪期。
- つまり風邪や原因のいかに問わず高熱の時という意味です。
2. 呼吸が苦しい人。動脈血酸素飽和度

3. 貧血の人。ヘモグロビン濃度10g/dl以下。
 4. 大動脈瘤・大動脈瘤離離・血栓塞栓症・脳動脈瘤に罹患している人。
 5. 肝臓病で倦怠感・手足のむくみ・腹水・黄疸のある人。
- 以上にあてはまる人は、スポーツへの参加は禁止となります。

中高年の市民スポーツ愛好家に対するメディカルチェックについて、循環器系疾患を中心にお話いたしました。日本のゴルフ場で起きた突然死に対するアンケート調査結果(北海道・九州地区)でも、心筋梗塞37.5%、脳卒中37.5%と大多数が循環器疾患であったと発表されております。本稿が、先輩後輩諸氏の健康管理に役立てば幸いです。

高崎高校

水泳部OB会

会長 新谷 恭一(54期)

高崎高校

剣道部OB会

会長 横田 茂(55期)

シリーズ寄稿 [VOL.3]

回想録
REMINISCENCES

バレーボール部
良き時代、楽しい思い出



バレーボール部OB会長
菊地 俊二 (52期)

群馬代表として
全国出場の夢が
叶った。全日本総
合選手権(山口)へ
の出場である。やう
との思いで掴み取
った栄冠に全員が
湧き返った。今で
も忘れられない程

の感激を憶えている。部員全員が全国の晴れ
舞台での活躍を期して、今迄に増して毎日の練
習に力が入り頑張っていた。

一、全国大会出場をかけた試合と不運の敗戦
昭和25年頃の高々は、部活動が盛んで活気
に充ち溢れ、名実ともに文武両道の実践がな
されていた。特にラグビー部は全国有数の実
力があり、関東でも常勝無敵を誇っていた。バ
スケト部や個人種目の陸上、テニス、水泳など
で全国出場を果たしていたと思う。

県内のバレー界では、桐生工業がインターハ
イに、高崎商業が国体に連続出場を果たし、
高々バレー部は新人戦、県選手権、関東予選
などでは県下制覇をするものの、全国出場の
夢は叶えられていなかった。

特に25年、26年のチームはバレー好きで技
能の高い優秀な選手が揃っており、勝つても不
思議でない実力を持っていた。優勝すること
を信じ、全部員が体調を整え、気迫に満ちて
試合に臨み勝負もあった。

当時バレー部顧問監督の金井繁次郎先生
は、優勝を予定して赤飯を炊き料理を用意
して、自宅に選手を呼んで労を労って下さる
計画準備を万端整えておられたが、折角のご
馳走も勝利の味と一緒に満腹になるまで戴
くことが出来ずに誠に残念な結果が続く。勝
利の女神に見離された感じさえ持った。

二、幻の全国出場

昭和26年夏の予選で県下優勝を成し遂げ、

突然金井先生が内藤由己男校長を伴ってコ
ートに連れられ、汗と泥にまみれて練習してい
た選手を集めさせた。内藤校長は真剣さと
沈痛さがじんだおもちで、重々しい口調
で我々を説得した。内容は「校舎焼失で毎日
の勉強でさえ不自由をしており、今は学校あ
げて復興資金の調達に全力であたっている時
期であり、僅かな経費も他からの協力に頼ら
ざるを得ない実状であり、社会的、道義的に
判断しても君達を学校として全国へ送るこ
とはできない状況、折角の優勝だが全国出場
は断念して欲しい。」というものであった。部員
は皆下を向いたままで、誰も発言せず黙って
聞いていた。二年生の私自身も学校の特別な
実状は十分理解できるものの、口惜しさと無
念さが入り混じった複雑な気持ちであった。

我々下級生には、まだ来年頑張るという希
望があるが、上級生の心境は察するに余りあ
るものであった。同級のS君はその時のことを
「がっかりして力が抜けて行くのがわかったの
を今でも鮮明に覚えているよ。」といっている。
全員が残気に耐えないうけ止めざるを得

得ず、高々バレー部の全国初出場の夢は、昭和
26年1月の校舎焼失の火災とともに煙となら
ず消えていった。

三、苦節27年の夢

幻の全国大会から四半世紀を越す長い年
月を経て、バレーボールも9人制から6人制に
遷り、戸外から体育館での試合が当然とされ
る時代が到来した。

昭和53年2月、全国高校選抜北関東大会
決勝戦の舞台に高々バレー部が駒を進めてい
た。対戦校は選抜大会連続出場を目指す強
敵高崎商業である。テレビでの放映もあり両
校の応援も熱気をはらみ大盛況の中、試合が
すすめられた。

赤に白字のユニフォーム姿の後輩がコートに
縦横にかけまわり、良く打ち良く拾って2対
0で宿敵を倒し、全国大会初出場の長い長い
夢を正夢してくれた。



第9回 全国高等学校バレーボール選抜優勝大会
昭和53年3月28日~4月2日 於:東京

バレーボールOB

高橋税理士事務所

税理士 高橋 浩生 (78期)

TEL 〇二七三三六三三六三三〇三

掛川司法書士事務所

司法書士 掛川 稔 (82期)

TEL 〇二七三三三三三三三三三三三

高崎高校

サッカー部OB会

会長 阿久澤 茂 (69期)

私は縁あって母校高々のバレー部監督とし
てベンチに座り、後輩の快挙を一緒に共有で
きる立場にあり最高の幸運に恵まれた。勝利
の笛が鳴った瞬間、「勝った!! やつと勝った。こ
れで高々バレー部が全国出場だ!! 27年前にO
Bが果たせなかった全国出場を目の前で後輩
が成し遂げてくれたのだ。お前等良くやった!!」
感動の瞬間だった。もうあの時も25年前の出
来事である。

因みに、東京で開催された全国選抜大会で
は全国16位の成績を取め、高々バレー部の名
を馳せる結果が残せた。これは後輩の弛まぬ
努力精進はさる事ながら、学校あげての応援
や、バレー部OBをはじめとする同窓、父兄の
絶大なご協力のお陰である。

苦節27年にわたり、高校時代から持ち続け
ていた夢の実現は最高の喜びで、今でも皆々
様に感謝している。

O B 会 の 活 動



卓球部OB会は、毎年定期的に新年会とゴルフコンペを行っています。都合により

ゴルフコンペは開催しませんでした。いつもご参加いただいているOBの方々には、連絡漏れでなかったことを報告しておきます。

前年度の活動としては、新年会と卓球大会を行いました。卓球大会は、現役との交流を目的として、夏合宿と新年の2回行いました。OBが賞品を持ち寄り、現役の中で、トーナメント戦での成績優秀者に授与する方式をとっています。今年も行う予定ですので、多数の参加をお願いします。

昨年の当欄でも紹介しましたが、毎月第二土曜日に有志が集まって卓球を行っています。会場を提供していただいている高見沢先輩が、ペテラン会の副会長に就任したこともあり、県下の卓球大会に参加するOBも多くなってきました。



ラグビー部OB会は、平成十四年一月五日高崎ビューホテルにおいて新年総会を

開催。昨年度OB会活動および決算報告ならびに今年度事業予定が発表され、すべて承認された。また、総会に先立ち恒例となつて現役対OB戦が高々グラウンドにて行われ、白熱したゲームが繰り広げられた。三月一日には卒業式のと、三年生部員に対して木村OB会長よりOBとなった証として鷹をあしらった錦糸のエンブレムを贈呈し、卒業を祝つた。

ラグビー部OB会は平成十四年五月にホームページを立ち上げ、高崎高校ホームページと翠巒体育会ホームページにリンクさせ、OB会員に対する情報提供の場を充実させた。また、現役強化費の原資となるOB会費の集金方法として、従来の郵便振替から金融機関の口座振替を導入する準備を始めた。

現役強化として、例年八月に菅平で行われている夏合宿には木村OB会長が訪問し、県総体三位から更に花園を目指すべく激励をする予定である。



この一年間を振り返ってみますと、大学柔道部に籍を置いた若手猛者達が多

数高々道場に訪れ胸を貸していたきました。

H5年卒の綱島毅君(横浜国大柔道部)現、高崎高校柔道部顧問、H6年卒の武藤洋介君(京大柔道部)現群馬県庁勤務、H8年卒の広田金次郎君(早稲田大学柔道部)現エイ

ブル勤務、H8年卒の高橋絢司君(埼玉大学柔道部)現警視庁、H8年卒の久保田浩史君(筑波大学柔道部)現筑波大学技官、H9年卒の鈴木才樹君(群馬大学柔道部)現箕郷中学校柔道部顧問、H13年卒の櫻澤正己君(現学芸大学柔道部)、H14年卒の藤井貴将君(現埼玉大学柔道部)、H14年卒の三輪洋介君(現山梨大学柔道部)らでありました。

現役の生徒にとつてみますと、実力向上はもちろんであります。社会人となつてからの柔道着姿を見せたいだけのことではなく、この上ない良き指導を得られたものと深く感謝致します。

さて、今年も一月三日には高々道場における稽古始め、OB対現役戦、そして場所を変えての総会、懇親会が関口茂樹会長のもと、まだまだお元気な今井孝造先生のご出席をいただき、現役生徒の激励も含めて盛会に行われましたことを重ねてご報告いたします。



高崎高校硬式テニス部OB会の活動としては、1月と8月の年に2回の活動が恒

例となつていきます。県外・海外で勤務したり、学生をしている先輩方や同級生、下級生などこの盆と正月には、同級生同士や学年に関係なく連絡をしたりなど集まりテニスをしたり、酒を交わしたりしています。最近では、平成十四年一月4日にOBテニス大会を行いました。出席した方は、平成4年卒(第91回)〜平成7年卒(第94回)までのOBと当時のからの顧問である塚越先生を含めて20名程度が集まりました。風が吹く寒い中ですが、汗を流

し、テニスを楽しみました。懐かしい当時の話や現役生の活躍の話、現在の仕事のことなど、いろいろな話題で盛り上がりました。



応援部OB会は、毎年新年総会と一回ゴルフコンペおよび懇親会を行っています。

現在、名簿に登録されている方は百八十数名。そのうち県内在任の方が百二十名程おります。しかし、年間行事に出席される方は二十数名程という現状であります。参加者が少なくより多くの会員の方に集まってもらえるようにすることが現在の課題だと思います。

主な活動として夏の甲子園予選での現役応援部の激励援助、新年の全体同窓会や翠巒体育会等の席で校歌や応援歌「翠巒」のリーダーをさせていただいています。

また、今までは全体同窓会の際にビュートホルの浴衣の上に応援部より借用した羽織袴を着ていたのですがこのたびOB会員個人負担で十着揃えることができ、ご協力いただきましたOBの方々には感謝申し上げます。あわせてOB会より、三着羽織袴を現役生に贈りましたことをご報告いたします。

高崎高校

硬式テニス部OB会

会長 齋藤 英敏 (83期)



一年卒業生を迎え総勢五百六十名の所帯になりました。

翠巒クラブは群馬県社会人リーグ二部で、三位になり、一部昇格をめざし頑張っています。ミドル翠巒クラブは高崎市民リーグで、勝

(PK勝)しかできませんでしたが、今年は一敗といひ出足です。毎年夏に交流していま

した前高と合同チーム、翠龍クラブを発足させ群馬四十雀リーグに加盟しました、初勝利もあげることができ、体力の衰えを身にしみながら戦っています。二つのリーグに参加している

ので選手募集をしています、四十雀は全員出場を基本としていますので我こそはと思われ方は七十七期上村君にご連絡ください。

十一回を迎える夏の前高との交流戦、今年は高高主催で行います。詳細が決まり次第ご案内します、奮ってご参加ください。

現役の練習や試合に、多くのOBの姿が見られるようになりました、物心両面に渡るますますの御援助を御願ひ申し上げます。



昨年十三年度は役員改選の年でしたが、総会にて現執行部がそのまま再任され、

第二期(任期四年)林進一(72期)会長体制として継続されることになりました。それ以外は例年の如く、静かな一年間でありました。ただ、この四月、鈴木武文先生(51期)が群

馬県、スケルトンボール協会の会長に就任されました。それまで財界の方が歴任されてきたので、教育関係者からの初の選出はある意味で快挙と申せましょう。

現役は相変わらずの健闘ぶり、昨年もインハイ出場の可能性が大きかったのですが、決勝で惜しくも僅差で敗れ涙をのみました。新チームになり県新人大会優勝、続く関東新人大会ではベスト4、春の総体はすべて百点ゲームで圧勝、すでにOBの間では三年ぶりのインハイ出場を前提に話題が盛り上がっています。

この号が発行される時には、すでに関東大会、インハイ予選も終了し、結果が判明しております。今年の総会では鈴木先生のお祝いと現役の壮行会を兼ねる予定になっております。願わくばこのよき予感が現実となつておりますように。



剣道部は一年生が十一人入部し、今年度は三年生まで入れると二十八人となりました。

「練習するには道場が狭くて困る」と、うれしい悲鳴をあげられるようになりました。この一年間のOB会の活動では、なんとつても昨年十月十三日に行われました、剣道部創立五十周年記念が一番大きな行事として挙げられます。午前中は高高剣道場で、現役生徒を含む稽古会が行われました。群馬県剣道連盟会長の中島先生もご指導くださり、大変内容の濃い稽古会となりました。

午後はホテルメトロポリタンで記念式典を開催しました。高高校長の小林先生、前述の中島先生、元高高剣道部顧問の別府先生、

また戦後の高高剣道部の創設者である故網中先生の奥様にもご挨拶をいただきました。全部で七十名程度が参加し、卒業後一度も会っていない先輩後輩とも久しぶりに会い、高校時代の思い出に花が咲きました。また、数多くのOBが思い出を綴った記念誌を発刊しました。

恒例の活動として一月三日の新年の稽古会、夏休み、春休みの合宿での夜の稽古会に、大勢のOBが参加し、生徒に指導をして頂きました。



平成13年度、野球部OB会では、例年と同様に、以下の通り活動いたしました。

翠巒体育会に於いては、役員会、総会、フリーマーケット出展と積極的に参加をし、ゴルフコンペでは優勝することができました。

5月には、現役選手の保護者会総会に飯島会長他数名が出席をして夏の甲子園大会予選に向けて激励を行い、後日、新入生保護者に対して入学の御祝いと野球部入部に感謝を込めて、激励文を郵送致しました。7月1日には、高々で練習試合観戦後、OB会総会を行い、7月16日には、城南球場に於いて夏季大会の観戦応援を行いました。惜しくも敗戦となりました。11月3日には、前高グラウンドに於いてOB定期戦が行われ、2対11と敗戦とはなりましたが、硬式ボールを使用していたのは参加者全員熱い青春時代に戻ったような楽しい一日となりました。

今年度は、総会は開催されず、OB全体の集まる機会はありませんでした。

若手()のOBで構成されている翠巒クラブも、年々メンバー不足に悩まされており、昨年は県内の大会を一度も制覇することなくシーズンを終えました。

例年6月に行われる唯一の全国大会予選クラブカップ大会で、持ち前の技術と頭脳プレーで若いチームを退けてきた翠巒クラブでしたが、今年の決勝戦では相手の執拗なシブに根負けし、セツトカウント1で惜しくも敗れ、関東大会でも、全国優勝の経験のある筑波大クラブと対戦し、そこでも初戦敗退という不本意な成績でした。

一部のOBでゴルフコンペも行われているようですが、やはりたての繋がり広がっていないように感じます。若手を集めて、OB全体の集まりを創つていくことが、バレー部OBの課題です。



今年度は、総会は開催されず、OB全体の集まる機会はありませんでした。

若手()のOBで構成されている翠巒クラブも、年々メンバー不足に悩まされており、昨年は県内の大会を一度も制覇することなくシーズンを終えました。

例年6月に行われる唯一の全国大会予選クラブカップ大会で、持ち前の技術と頭脳プレーで若いチームを退けてきた翠巒クラブでしたが、今年の決勝戦では相手の執拗なシブに根負けし、セツトカウント1で惜しくも敗れ、関東大会でも、全国優勝の経験のある筑波大クラブと対戦し、そこでも初戦敗退という不本意な成績でした。

一部のOBでゴルフコンペも行われているようですが、やはりたての繋がり広がっていないように感じます。若手を集めて、OB全体の集まりを創つていくことが、バレー部OBの課題です。

成人で健康のためにスポーツを始めよう、またやってみようという方が、最近増えており、わが水泳部OB会の集まりでも、俺もまた泳ぎ始めた俺も泳いでいるよという話をよく耳にします。以前より水泳の世界では、成人を対象として年齢別選手権やマスターズ大会が各地で開催されており、水泳部OB会としても、昨年よりは是非OBが集まって翠巒クラブ等の名称で大会に参加したいと考え



成人で健康のためにスポーツを始めよう、またやってみようという方が、最近増えており、わが水泳部OB会の集まりでも、俺もまた泳ぎ始めた俺も泳いでいるよという話をよく耳にします。以前より水泳の世界では、成人を対象として年齢別選手権やマスターズ大会が各地で開催されており、水泳部OB会としても、昨年よりは是非OBが集まって翠巒クラブ等の名称で大会に参加したいと考え

成人で健康のためにスポーツを始めよう、またやってみようという方が、最近増えており、わが水泳部OB会の集まりでも、俺もまた泳ぎ始めた俺も泳いでいるよという話をよく耳にします。以前より水泳の世界では、成人を対象として年齢別選手権やマスターズ大会が各地で開催されており、水泳部OB会としても、昨年よりは是非OBが集まって翠巒クラブ等の名称で大会に参加したいと考え

成人で健康のためにスポーツを始めよう、またやってみようという方が、最近増えており、わが水泳部OB会の集まりでも、俺もまた泳ぎ始めた俺も泳いでいるよという話をよく耳にします。以前より水泳の世界では、成人を対象として年齢別選手権やマスターズ大会が各地で開催されており、水泳部OB会としても、昨年よりは是非OBが集まって翠巒クラブ等の名称で大会に参加したいと考え

成人で健康のためにスポーツを始めよう、またやってみようという方が、最近増えており、わが水泳部OB会の集まりでも、俺もまた泳ぎ始めた俺も泳いでいるよという話をよく耳にします。以前より水泳の世界では、成人を対象として年齢別選手権やマスターズ大会が各地で開催されており、水泳部OB会としても、昨年よりは是非OBが集まって翠巒クラブ等の名称で大会に参加したいと考え

ておりましたが、エントリーの問題もありなかなか実現せず、個人的な参加にとどまっております。今年こそ是非翠巒クラブの名前での参加を実現したいと意気込んでおります。

水泳部OB会の定例行事としては、現役の夏合宿に併せたOB会総会及び陣中見舞い、年初めの新年会等があり、多数のOBが毎年参加されております。自由形短距離の県記録を多数お持ちで私の大学水泳部の後輩でもある清水昭宏先生が、昨年高水泳部の顧問に就任されたことを大変心強く思っており、先生の水泳の恩師でもある群馬スイミング小茂田猛主任コーチ(高高67期)と協力して高水泳部を発展させることを水泳部OB一室切に願っております。



陸上部OB会は
昨年度に引き続き、後藤次一會長を中心に、會員相互の懇親、現

役生徒の活動の支援を行っています。會員の懇親については、昨年は、OB会総会を8月の中旬、お盆の時期に行い、高松中学校の教諭で陸上部顧問をされている高橋健一さんという新たな参加者を得ることができました。とはいえ、まだまだ若い世代の参加者は少ないのが現状です。また、例年行われている4月の翠巒体育会のフリーマーケットにも協力していますが、なかなか都合のつく者がおらず、ご迷惑をおかけしました。現役生徒への支援については、OB会総会に先立ち、後藤會長と木村會計で、7月末に、インターハイに出場する2名の手へ、激励金を渡しました。2名はともに惜しくも決勝進出をのがしましたが、秋の国

体では、少年Bの3000mで入賞者を出してくれました。これからも、現役生徒が少しでも活躍してくれるよう精一杯支援を続けたいと思います。



OB会の活動
としては、昨年も例年通りお盆の土曜日にOB・現役の交流試合を

実施し、夜に総会と懇親会を長谷川ホテルで行いました。交流試合では、大先輩から最近卒業した若手まで幅広く集まっていたので、楽しい汗をかくことができました。体力と体型の衰えは隠すことはできませんが、時折見える往年を髣髴とさせるプレーにおおいに盛り

先輩がんばっています。

陸上部

千頭和幸弘



陸上部の目標としているのは全国制覇。今年も全国への第一関門の総体を突破した者でなかった者がいる。全員が全国への道を目指し、去年の冬季から厳しい練習に取り組んできた。しかし、全その者が全国へのキップを手に入れることはできない。ただ全国への道がなくなつたか、また終わっている。学校対抗がある。いつか全国につながることを信じ、残りの大会に全力を注ぎたい。陸上部は顧問の先生方、そしてたくさんOBの方々に支えられ、築かれてきた。その伝統を受け継ぎ、感謝の気持ちをお忘れず、今を精一杯がんばっていきましょう。

り上がりました。夜は、高校時代の思い出話とともに現況を報告し合つて旧交を温めました。今年も同じ時期に開催する予定ですので、會員の皆様のご参加をお待ちしております。今年も新入生が十一名入部し、総勢二十一名で、活気にあふれて練習をしております。過日の関東大会には、団体・個人(二組)とも出場し、特に団体戦では優勝した木更津中央と三番勝負に持ち込むなど、着実に力をつけているようです。これからはインターハイ団体出場を目指して頑張りたいと思います。ほぼ毎日練習していますので、お近くにお越しの際は是非お気軽に母校のコートにお越しください。

OB会の活動

軟式野球部

静野 賢亮



我々軟式野球部は、2年生16人、1年生24人で夏季大会での栄光を夢見て、日々練習に励んでいます。日々練習といつても内実は週三日の練習です。だからといって私たちは急げ者ではありません。週三日といつて数少ない練習をどう充実させるか、頭で考えながら体を動かしているのです。ある意味物凄く文武両道しています。練習場は河川敷グラウンドという湿っぽい場所ですが、硬式野球部に対するジェラシーは全くなく笑顔いっぱい元気いっぱい体と心の充実をはかっています。

そして、これからは今までに培った技術、それこれからの練習で身につける予定の知力で夏休みまでは高々旋風を巻き起こしたいです。

硬式テニス部

櫻井 幹也



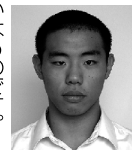
テニス部は現在三年生十九名、二年生三十一名、一年生三十一名、計八十二名により顧問の塚越先生指導のもと、一人一人が自覚をもち、一致団結して練習に励んでいます。日常の学校での練習の他、合宿や練習試合を数多くこなし、実践的な練習を心がけてます。

今年度の県総体では、シングルス及びダブルスともに優勝を果たし、また、シングルスにおいてはインターハイへの切符を手にすることができました。そして、団体戦においても第三位と健闘しました。現在は、団体でインターハイ出場を目指し、練習に励んでいます。

部活をとおしてお互いが切磋琢磨し、テニスの技術はもろろんのこと、チームワークを高めあうよ心がけてます。

柔道部

椋澤 亮介



僕は、いつもポジティブシンキングを心掛けています。「俺たちにはできる。」といつも自分に言い聞かせ、力いっぱい稽古、研究すれば必ず夢はかなうのです。

六月七日から始まる関東大会では、団体戦と個人戦は椋澤が出場します。相手は強く、苦しいですが、気持ち一歩踏み込んで、今までやってきたことをぶつけて優勝します。

六月十八日はインターハイ予選の団体戦があります。県総体で前橋育英に敗れた雪辱を必ず果たします。そして、優勝して、全員でインターハイに行くのです。試合まで残り少ないですが、出来ることをすべてやって、全国で高崎高校の名をこころかせようと思えます。応援よろしくお願ひします。

硬式野球部

大河原 勇紀

我々硬式野球は現在二年生十三名、一年生十六名、一年生十五名の計四十四名で、日々短時間集中で、内容のあるしも実践にできるかぎり近い気持ちで練習に励んでいます。あくまで甲子園という晴舞台への出場を目標とし、チーム内の個々の選手が一致団結し、また、監督部長ともども一つとなり、目標へ一途な気持ちで向かって行きたいと思っております。自分達三年は、残り二ヶ月をきり、もう後がないので、一日一日を大切に、そしてこれまでやれば悔いはないと言えなくらいこの「高校野球」にかけたいと思えます。今まで何のために苦しい練習に耐えてきたのかももう一度ここで思い出し、頑張りたいと思うので、御支援、御声援よろしくお願ひします。



応援部

樺 公太

我々応援団は今年で第五十一代目を数え、高高の伝統を長きに渡って受け継いできました。「応援団」それは世界的に見れば、硬派、古くさい、つまらなさなど、あまり良いイメージを持たれないことが多いです。しかし、「応援すること」は他のスポーツに引けをとらない程の団結力が必要であり、また充実感を味わうこともできます。今後高高応援団は伝統を受け継ぎ、また発展させ、高高生のために声の限りに応援していきます。伝統より更に栄えあれ。



空手道部

木暮 亮介

我々空手道部は、二年生五名、一年生三名というとても少ない人数で活動しています。活動時間は、平日の放課後四時から六時半までの二時間半で、土曜日は二週間に一度、コーチを呼んで練習に励んでおります。我々の目標として団体組手、形共に関東大会に出場することです。その為に基礎体力作りを中心とした練習をしています。引退してしまつた先輩方も時々練習を見せたり指導してもらっています。一年生には真面目に練習に来てもらい、できるだけ早く一年生に追いつくのを目標に基礎的なことを学んでもらうと共に二年生も引退した先輩方を追い越せるように一年生、二年生が一丸となって取り組んでいこうと思ひます。



弓道部

堀内 岳洋

『定期線で前高に勝つ』これは昨年、定期線で前高に負けたときから自分の目標の一つとなつてゐる。そして自分たちが中心となつて前高に挑む今年こそは絶対に勝つたいのでそのために今年も一年生を少し早めに的に立たせようと思つた。例年高々はじっくりとすすめていくつもりで、ついても他校と比べて前に立つのが遅れがちになつてしまふ。だから今年も思い切つて一年生を早めに仕上げ、例年よりも多く弓を引けるようになつてほしい。



そして一年生と二年生で協力し高め合い、公式戦においては、一つでも多く関東大会、全国大会に出場することを目標にしたい。さらに、弓道を通じて自らの向上をはかりたいと思つた。

バレーボール部

伊田 悠一

我々バレーボール部は、「勝つ」ということを目標に、そして4年振りとなるインターハイ出場を目指して日々練習を重ねています。さらに、「ここ最近大会での決勝戦のカードがずっと伊東対桐商である」という



サッカー部

間藤 大地

現在サッカー部は、三年生十三名、二年生二十三名、一年生二十三名の計五十九名、構成され、坂田先生の指導、丸山先生、塩原先生、保護者会やOB会などの下、様々な人々に支えられて日々練習に励んでいます。ここ二年近く県、ベスト8の壁を惜しくも敗れぬ状態が続いています。他の強豪校に比べ環境や練習量、選手層などの面でやや劣る面が見受けられますが、組織力や一人一人の取り組み方によって十分に補つていけるものだと実感しています。



常に「1」の目標として群馬県制覇が掲げられており、決して手の届かない距離にあるわけではありませんが、各高校の実力が均衡している今、高々サッカーで群馬県制覇を目指します。

卓球部

立川 裕康

我々卓球部は、毎週日曜日以外に練習をする週六日制で活動をしています。練習時間、練習場所は強豪校と比べ、決して良いとは言えませんが、特に練習場所においては、大きな差があるように思えます。し



高崎高校

ソフトテニス部OB会

会長 下山 万吉雄 (63期)

しかし、昨年六月のインターハイ予選では一回戦敗退、その後の県新人大会においても二回戦敗退と思つたような結果が残せていません。そこで今年「ベスト8進出」という目標を全員で掲げ、今まで以上に技術面での向上はもちろん、部内の団結を強めています。高高卓球部に今まで以上に期待して下さい。応援よろしくお願ひいたします。

ソフトテニス部

伊勢 祐一

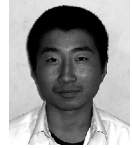
我々ソフトテニス部は、インターハイに団体で出場し、全国で勝つという目標の下、日々練習に励んでいます。先日の総合体育大会では、団体、個人共に関東大会出場への切符を手に入れることができました。関東大会ではその大会の次週も行われるインターハイ予選につなげるために、全力で戦つてきたいと思つています。そして、インターハイ予選では、これまでの練習、合宿、大会等、すべての経験を生かし、目標を達成できるよう頑張りたいと思ひます。今年のチームには、その目標を成し遂げられるくらいの実力は持っています。あと、チームがどだけ一丸になれるかです。そして、一人一人が最後まで全力を尽くし、悔いの残らない試合をしてきたいと思ひます。



ラグビー部

須永 裕太

今年のラグビー部は三年生は少ないが、一、二年生が多く若いチームとなりました。一人一人がしっかりと練習の



意味を理解し、ケジメのある楽しさを含言葉に日々の練習に励んでいます。また、スタッフも充実しており、櫻井先生をはじめと、大野先生、中野先生と、ほくらをバックアップしてくれています。ほくららの目標は花園へ出場することです。それには農大二高と二つのおおきな壁を超えなければなりません。しかし、ほくらは彼らの存在を苦と思わず、逆に強いチームと戦えるという言びにかえて、頑張っています。そして、結果として彼らに勝つというのがほくららの「答え」です。

水泳部

中島 和希

三年生にとって水泳の大会は関東高校県予選と高校総体の二つがあります。僕たちはまず6月にある関東高校県予選で関東大会に出場できるように、顧問の清水先生のもとで練習に励んでいます。昨年の関東大会では決勝に進出できず、インターハイ目標記録も突破できずにインターハイ出場とはならなかったため、今年こそはインターハイに出場したいと思っています。そして8月に行われる高校総体では、昨年学校対抗で7位になったので、今年はその以上の成績を目指しています。またこの大会は三年生の最後の大会なので、個々の目標を達成できるように頑張りたいです。



山岳部

日部 貴博

この数年間高高山岳部の大会での成績はいまひとつであり、過去の高高山岳部の栄光は消えつつありました。ま



た、部員減少により部の存続すら危うい状態になったことありました。しかし高高山岳部は今年復活を果たしました。部員は他の部活に自慢できるほど多くはありませんが、内容の濃い多くの山行を経験し部員全員が身も心も成長しました。そして総体では、綿密な事前研究と下見登山や毎日の練習の成果が生かされ、見事五位入賞を果たし関東大会の出場権を勝ち取りました。現在は夏山合宿や十一月に行われる関東大会のために毎日練習に励んでいます。部員不足が少し心配ですが、部員一丸となって来年こそは総体で優勝し、全国大会に出場したいと思っています。

スキー部

松橋 茂実

こんにちは、スキー部です。スキーといっても、競技スキーを中心にやっています。一般にはあまりなじみがなく、つまらなそうと思うかもしれませんが、寒い冬のイメージとは逆に、スキー場ではとてもスリリングで、熱いレースが繰り広げられています。私たちの目標には、まず関東大会というのがあります。スキー場から遠く、練習の機会の少ない都市部の高校にとつて、その道は険しいものがあります。しかし、近年、高タスキー部のレベルは上がっており、県大会でも上位に食い込むまでになりました。他の部活とは違い、シーズンが短く、まだまだマナースポーツというイメージがあるスキーですが、これからは高タスキー部は、自分たちの目標達成を目指して日々精進していきたく思います。



剣道部

斎藤 貴弘

昨年の十月、高崎高校剣道部は五十年の活動を記念して記念式典が行われました。私たちは現役の部員として

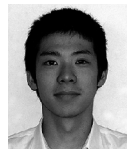


抱負を述べるために参加させて頂きました。会場には祖父と同世代の先輩から少し年の離れた兄のような先輩まで幅広い世代の先輩がいらっしゃっていたので、剣道部の伝統を感じずにはいられません。その伝統に恥じないよう毎日の稽古に励み、九月の選手権大会と五月の高校総体でもともにベスト8になることができそうです。しかし、いつまでも一歩のところで負けてしまいたくありません。ですから次々とは是非ともベスト4以上になりたいと思います。そして先輩方の伝統に近づくために、また新しい伝統をつくるためにがんばりたいと思います。

バスケットボール部

西村 昌吾

我々バスケットボール部は、史上希にみる大人数で顧問の立見先生、副顧問の篠原先生、渋谷先生の熱いご指導の下、日々練習に励んでいます。今年早々に行われた県新人戦に優勝し、その関東大会では、ベスト4まで勝ち進むことができ大きな経験となりました。そして先程の県総体においてもチーム一丸となつて優勝することができ、日々の積み重ねに間違いはなかったのだと多少の自信がつかまりました。しかし、僕達はまだまだ自分達の求めるバスケの完成形には到達していません。ただ、近づいていることも確かなのです。IH予選までのわずかな時間をこれまでに大切に、強い心と応援して下さる方々の期待を力にしてIH出場。そして一つでも勝つよう全力で精進していきます。



バドミントン部

庭田 佳弘

我々バドミントン部は部に昇格して今年で一年とすこしのまだまだ若い部です。しかし、部に昇格して以来、部員も急増し、より精力的に活動しています。現在



部員は二十八人まで増えてきました。部室の使用、部への昇格、部費と少しずつよくなる環境の中、日々練習にはげんでいます。練習は基本的に週六日。平日コートは二つしかないのに練習時間は比較的長いです。また、県単位の大会だけでなく市内の大会にも幅広く足を運び、高校生に限らずいろいろな方々と試合をしています。以上のように日々、技術の向上に力を入れている我々ですが、県の大会ではあまりよい結果が残せていません。今後バドミントン部はすこしでも結果が残せるよう努力していきます。

高崎高校

バスケットボール部OB会

会長 林 進一 (72期)

高崎高校

陸上部OB会

会長 後藤 次一 (68期)

高崎高校

ラグビー部OB会

会長 木村 洋 (59期)

平成13年度 運動部活動状況

陸上競技部

北関東大会

四百m 優勝(北嶋) 八百m 2位(樋口)
五千m 6位(柳澤)

県選手権

八百m 優勝(樋口) 3位(中山)
少年B八百m 4位(藤井) 四百m 2位(北嶋)
五千m 4位(関) 6位(中山)
五千m 6位(関)

強化記録会
四百m 4位(樋口) 八百m 2位(樋口)
四百m 4位(神戸) 棒高跳 4位(高田)
三千m 5位(新井) 6位(柳澤)
五千m W 優勝(新井) 2位(福田) 5位(柳澤)
6位(宮近)

団体予選

少年A八百m 2位(樋口) 3位(中山) 5位(瀧川)
五千m 4位(高橋) 百十m 5位(北嶋)
少年B八百m 優勝(藤井) 4位(飯塚)
三千m 優勝(関) 3位(飯塚)

学校対抗

四百m 4位(樋口) 八百m 5位(樋口)
五千m 3位(中山) 4位(関)
四百m 優勝(北嶋) 6位(神戸)
三千m 6位(新井) 百十m 3位(北嶋)
五千m W 優勝(柳澤) 2位(新井) 6位(片山)
千六百m R 4位(樋口) 中山 神戸 北嶋

県新人

八百m 優勝(中山) 2位(瀧川) 5位(藤井)
千五百m 優勝(中山) 4位(関) 5位(飯塚)
五千m 2位(瀧川) 3位(高橋) 4位(飯塚)
百十m 2位(樋口) 四百m 優勝(神戸)
三千m 4位(新井)

千六百m R 5位(宮近) 中山 瀧川 神戸
棒高跳 4位(高田) やり投 3位(片山) 5位(高田)
強化大会

二年八百m 2位(瀧川) 百十m 優勝(樋口)
千五百m 2位(瀧川) 4位(新井) 5位(高橋)
四百m 3位(神戸) 4位(宮近)
やり投 5位(中山)
千四百m 優勝(藤井) 5位(優勝(飯塚))
八百m 優勝(藤井) 2位(関)
千五百m 優勝(関) 2位(飯塚)

走高跳 6位(福田) 棒高跳 4位(高田)
三段跳 5位(福田) 円盤投 5位(片山)
やり投 優勝(片山) 4位(高田)

県高校駅伝
国体 少年B三千m 6位(関)
新人駅伝
団体 少年B三千m 6位(関)
千五百m 2位(中山) 五千m 4位(関)
やり投 4位(片山)

バスケットボール部

関東高等学校バスケットボール選手権大会
インターハイ県予選 3位
ウィンターカップ県予選 3位
西毛地区新人大会 優勝
新人大会 優勝
関東新人大会 3位

バレーボール部

県総体
インターハイ県予選 ベスト8
西毛地区大会 ベスト8
秋季大会 優勝
新人大会 3位

ソフトテニス部

関東大会 個人戦 大林・小佐野組 3回戦敗退
伊勢・相澤組 2回戦敗退
インターハイ県予選 団体戦 ベスト8
一年生大会 小林・相澤組 2位
岡・中里見組 3位
斎藤・秋山組 3位

新人戦 団体戦 伊勢・相澤組 3位
個人戦 伊勢・相澤組 2位

富所・柿沼組 3位
小林・土岐組 ベスト8
徳安・丸岡組 ベスト8
全国選抜大会県予選 3位

卓球部
インターハイ予選
(団体) 1回戦 高崎3-0玉村
2回戦 高崎2-3渋川
(シングルス) 築瀬 4回戦敗退
武井 4回戦敗退
栗田 4回戦敗退
鹿内 4回戦敗退

新人大会
(団体) 1回戦 高崎3-0桐工
2回戦 高崎0-3前橋
(シングルス) 築瀬 4回戦敗退64位
栗田 4回戦敗退64位
(ダブルス) 築瀬・栗田組 4回戦敗退

弓道部

関東個人選手権予選
西毛地区大会 高階 7位 関東大会出場
高崎市民大会 上條 団体3位 優勝

ラグビー部

一年生大会
高崎12-12県央 抽選負
高崎60-0桐一 敗者戦

全国大会予選

高崎49-13樹徳
高崎69-0高商
高崎31-14前橋
高崎0-70農二

7人制大会
高崎50-0中央・藤岡
高崎7-19前橋

新人大会
高崎3-7前橋 5位

水泳部
新人戦 高崎0-2常磐 ベスト8
関東高校県予選
二百7位(笠原) 四百自8位(笠原)
百平7位(柳澤) 二百平7位(柳澤)
百タ7位(五十畑)
二百個メ7位(松本) 8位(高麗)
二百8位(松井) 二百背7位(松井)
四百R 6位(笠原) 五十畑・松井・江原
八百R 7位(松井) 柳澤 五十畑・笠原

県高校総体
二百8位(笠原) 二百背4位(松井)
二百4位(松井) 8位(中島)
四百個メ7位(柴田)
四百R 8位(笠原) 松井・江原・中島
八百R 6位(笠原) 松井・江原・中島
県高校新人大会
五十背 1位(松井)
百背 1位(松井) 大会新記録
二百背 1位(深沢) 百背 3位(中島)
二百個メ 1位(堀口)
四百R 4位(松井) 松倉 中島 堀口
四百R 4位(松井) 松倉 中島 堀口
四百メR 3位(松井) 松倉 中島 村松

柔道部

関東大会 団体戦・個人戦(栞澤) 出場
インターハイ予選
団体戦
個人戦 60kg級 三輪 3位
66kg級 今井 5位
73kg級 青木 5位
松嶋 5位
81kg級 栞澤 優勝
藤井 I・日へ 3位

国体予選
松嶋 73kg級 5位
栞澤 90kg級 2位
藤井 4位

インターハイ
個人戦 81kg級 栞澤 5位
少年強化選手選考会 73kg級 松嶋 5位

新人戦 団体戦 栞澤 5位
個人戦 栞澤 5位
松嶋 5位

81kg級
 新人大会 団体戦 梶澤 優勝
 3位
 全国高校選手権予選
 個人戦 梶澤 優勝
 団体戦 梶澤 優勝
 3位
 全国高校選手権個人出場梶澤

剣道部

インターハイ予選
 1回戦 高崎4-0前商
 2回戦 高崎2-3高商
 選手権大会
 1回戦 高崎5-0前工
 2回戦 高崎3-2高北
 3回戦 高崎5-0前工
 準々決勝 高崎1-4常磐
 県新人大会
 2回戦 高崎1-2前橋

ベスト8

硬式テニス部

新人戦
 団体戦
 個人戦 シングルス 都筑 3位
 優勝
 3位
 板橋 3位

総体

団体戦
 個人戦 シングルス 都筑 3位
 優勝
 3位
 板橋 3位
 ベスト8
 ベスト8
 ダブルス 都筑・板橋組 優勝
 インターハイ予選 都筑 準優勝
 個人戦 シングルス 板橋 3位
 矢川 ベスト8

空手道部

インターハイ予選
 団体 組手 ベスト8進出
 個人 形 堀口 決勝進出
 新人戦
 個人 形 堀口 3位
 個人 形 堀口 3位
 一、二年生大会 決勝進出
 団体 形 堀口 4位
 西毛大会 敢闘賞
 個人 形 堀口

総体
 個人 形 堀口 決勝進出

硬式野球部

夏季大会
 1回戦 高崎3-4榛名
 秋季大会
 1回戦 高崎1-3高東
 西毛リーグ 決勝トーナメント
 準決勝戦 高崎8-1高経(8回コールド)
 決勝戦 高崎1-8高商
 春季大会
 2回戦 高崎9-2松井田(8回コールド)
 3回戦 高崎1-2太東

スキー部

インターハイ県予選 松橋 S.L10位

バドミントン部

インターハイ予選
 1回戦 高崎3-1富実
 2回戦 高崎1-3伊東
 県高校生大会 中嶋 3位

新人戦

団体戦 1回戦 高崎1-3前工
 ダブルス 清水・中島組 4回戦進出
 シングルス 金井 3回戦進出
 1年シングルス 狩野・遠藤5回戦進出

軟式野球部

夏季大会 1回戦敗退
 秋季大会 1回戦敗退

第37回高校総体成績一覽(14年度)

総合順位 第2位

バスケットボール部

2回戦 高崎100-24健高
 3回戦 高崎101-35渋工
 4回戦 高崎101-36県央
 準々決勝 高崎116-41樹徳
 準決勝 高崎105-41前東
 決勝 高崎104-63高商 優勝(関東大会)

卓球部

1回戦 高崎3-0渋工
 2回戦 高崎1-3前東
 ダブルス 築瀬・栗田 ベスト8

バレーボール部

4回戦 高崎2-0渋川
 準々決勝 高崎2-0前西
 準決勝 高崎0-2伊東 3位(関東大会)

ラグビー部

2回戦 高崎40-24樹徳
 準々決勝 高崎33-19県央
 準決勝 高崎0-58農二
 シールド決 高崎6-5前橋 3位

サッカー部

4回戦 高崎4-0伊商
 準々決勝 高崎1-1(PK3-5)高経附5位

ソフトテニス部

2回戦 高崎3-0西邑
 3回戦 高崎2-0吉井
 準々決勝 高崎2-1高北 決勝リーグ3位
 小林・土岐組、相沢・伊勢組 5位(関東大会)

バドミントン部

1回戦 高崎0-2桐商

柔道部

団体 2回戦 高崎5-0前東
 3回戦 高崎4-0樹徳
 準々決勝 高崎3-0常磐
 準決勝 高崎0-4育英 3位(関東大会)
 優勝(関東大会)

個人 梶澤

剣道部

1回戦 高崎5-0太田工
 2回戦 高崎3-2常磐
 3回戦 高崎4-1利根実
 準々決勝 高崎2-3農二 5位

山岳部

5位(関東大会)

軟式野球部

1回戦 高崎7-0高工
 準々決勝 高崎1-8農二 5位

弓道部

決勝トーナメント 7位

硬式テニス部

2回戦 高崎2-1前東
 3回戦 高崎2-0前南
 3回戦 高崎2-0前商
 決勝リーグ 3敗 優勝(関東大会)
 シングルス 都築 優勝(関東大会)
 板橋・矢川 5位
 ダブルス 都築・板橋組 優勝(関東大会)

空手道部

1回戦 高崎1-4利根実
 個人 形 堀口 6位

水泳部

7位

陸上競技部

千五百m 2位(中山) 4位(関)
 棒高跳 5位(高田) 五千m 2位(関)
 八百m 2位(中山) 百十m 5位(樋口)
 やり投 4位(片山) 6位(高田)
 (ここまで北関東大会)
 五千m W 4位(山口) 走幅跳 7位(谷岡)
 砲丸投 8位(片山) 円盤投 7位(片山)
 八百m 7位(藤井) 8位(瀧川)
 駅伝 4位 6位

高崎高校

応援部OB会

会長 永井 功(65期)

翠 巒 体 育 会 役 員 名 簿

(平成 14. 6. 28)

		氏 名	回	学 校 側 顧 問
会 副 会 長 〃 〃 (剣 道) 〃 〃 (ラ グ ビ ー) 〃 〃 (バ ス ケ ッ ト) 〃 〃 (会 計) 〃 〃 (会 計) 〃 〃 会 計 監 査 〃 〃 顧 問 〃 〃	長 会 長	山口 敏 正 一郎	58	学 校 長 ・ 小 林 克 茂 教 頭 ・ 大 崎 博 章 運 動 部 長 ・ 坂 田 和 文
	〃 〃 (剣 道)	◎ 川手 義 昭	65	
	〃 〃 (ラ グ ビ ー)	◎ 横田 章 司	62	
	〃 〃 (バ ス ケ ッ ト)	◎ 塚越 洋 一	55	
	〃 〃 (会 計)	◎ 木村 進 一	58	
	〃 〃 (会 計)	◎ 庭登 志 男	59	
	〃 〃 会 計 監 査	◎ 藤 義 夫	72	
	〃 〃 顧 問	◎ 高橋 浩 生	68	
	〃 〃	◎ 丸山 功 一	58	
	〃 〃	◎ 廣田 誠 四 郎	78	
	〃 〃	◎ 岩国 善 次 郎	60	
	〃 〃	◎ 岩田 武 雄	64	
	〃 〃	◎ 清水 貞 保	50	
〃 〃		53		
〃 〃		30		
理 事 陸 上 卓 球 ソフトテニス バスケット バ レ ー ラ グ ビ ー サ ッ カ ー 水 泳 柔 道 剣 道 野 球 応 援 硬式テニス 山 岳 スキ ー ・ スケ ー ト 道 弓 手 道 空 手 軟 式 野 球 バドミントン	◎ 後藤 次 一	68	高橋賢作・茂原賢三・田中雅徳 西澤 南・宮崎秀明 浦野克彦・井坂 奨・柴崎浩明 立見賢治・篠原浩一・澁谷正章 塚本泰弘・宮川淳吾・森泉孝行 櫻井 清・大野俊彦・中野憲一 坂田和文・塩原秋雄・丸山直樹 清水昭宏・橋本晃一 鳥居吉二・木村高己 戸塚泰聖・萩原弘和 大須賀誠一・毒島健一 川崎洋一・茂木 豊 植原政明・金井 明 塚越 究・松本正志 柴田 栄・齊藤敬一・丸山直樹 小林政幸・猿谷晃司・茂木 豊 天野正明・丸橋 正 宏 関口博士・工藤 正 宏 関根正弘・関口 博 昭 三浦昭久・中 村 博 昭	
	◎ 谷本 正 樹	70		
	◎ 深沢 博 昭	71		
	◎ 下山 万 吉	57		
	◎ 丸山 吉 雄	68		
	◎ 橋爪 良 真	63		
	◎ 榊原 一 好	68		
	◎ 佐藤 弘 之	75		
	◎ 岩丸 高 明	79		
	◎ 掛根 正 志	81		
	◎ 上羽 正 弘	82		
	◎ 阿久沢 茂 光	82		
	◎ 赤羽 英 哲	70		
	◎ 清野 泰 一	72		
	◎ 新谷 小 木 勝 弘	69		
	◎ 尾口 俊 樹	73		
	◎ 東瀬 朝 紀	74		
	◎ 寺沢 保 夫	54		
	◎ 藤木 正 一	56		
	◎ 飯野 一 彦	70		
	◎ 小池 潤 一 郎	63		
	◎ 清水 林 均	69		
	◎ 永井 功 清	83		
◎ 堀秋 賢 英	74			
◎ 齋藤 敏 志	84			
◎ 近左 石 光	84			
◎ 石田 光 成	91			
編 集 部	藤井 正 弘	81		
事 務 局 事 務 局 長	◎ 鳥居 吉 二	73		
	◎ 櫻井 清	81		
野 球 バ レ ー	◎ 飯島 勇 二	57		
	◎ 菊地 俊 二	52		

◎ は各部OB会長。

翠巒体育 第二一〇号
平成十四年六月二十八日発行
翠巒体育会事務局
〒三七〇〇八六一
高崎市八千代町二四一
群馬県立高崎高等学校内
☎〇二七(三三)四〇〇七四
制作・発送 (株)スパン

翠巒クラブの強さは「力」では
ありませんでした。他のチ
ームに無い、頭腦的プレー、こ
一番の集中力でした。いわばこ
れが翠巒健児のパワーだと思
います。
(石丸・82期)

今年も現役達は素晴らしい
活躍と聞いております。これ
からも翠巒健児、高々の運動
部すべてに応援のエールを送
り続けたいと思っております。

私はいま、サッカーワールドカ
ップで日本が決勝トーナメント
進出を決めたところを見まし
た。やはりスポーツは見る楽し
みもあります。プレーヤーと
して勝利を味わうことができ
れば最高だろうなと、選手達
を見て思いました。

私は、バレー部出身で今でも
OBチーム翠巒クラブで競技
を続けております。近年連覇
は途絶えましたが、県下では
十数年勝ちつづけ、普段味わ
うことができない勝利の喜び
を多くの先輩達と分かち合っ
てきました。

〇〇 編集後記 〇〇
たつた今、サッカーワールドカ
ップで日本が決勝トーナメント
進出を決めたところを見まし
た。やはりスポーツは見る楽し
みもあります。プレーヤーと
して勝利を味わうことができ
れば最高だろうなと、選手達
を見て思いました。